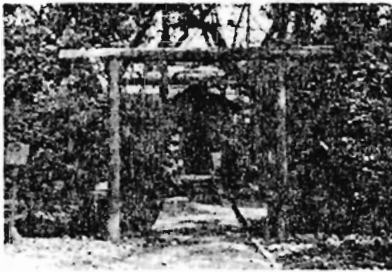


糸海

編集発行 伊丹市文化財保存協会
 発行所 伊丹市千僧1丁目1
 TEL 0727-83-1234
 昭和48. 1. 1 第1号



伊丹の地名について

1 糸海 伊丹の古い書物を見ると伊丹という文字が出る前、伊丹のことを糸海と書かれている。これは昔伊丹は海岸にあつてそれから糸のような入海のつまつたところに伊丹の村があつたことからと伝う。

2 北村 北村は大きな村だがらようと伊丹の北に接続していたからこの名がおきた。

3 神津 神津は神の津で良い港の意

4 御願塚 昔行基が畿内に四十九院を建てる時、その安全祈願を行つて仕事を始めた塚

5 東野、西野、南野、中野 猪名野笹原の各東西南北にあたつている。

6 有岡(在岡) 昔、薬師山に夜なく、不思議な御光がさし何であらうかとたずねたところ薬師山の雑木の枝に金色の薬師如来が現われその御光が四海をたらしてつた。村民はいたくおそれつつしんでこれを一字に納めたのが今の猪名野山

法園寺であると伝えその御光にてらされた一帯を有あけが丘と称え後に語呂転じて有岡というようになった。

7 千僧 元明天皇の相嗣六年(七一三)勅願によつて国家安泰庶民息災のため千僧供養が行われたのでこの地名がおこつた。

8 池尻 池尻がおこつたのは醍醐天皇の延長年間(九〇四)といわれるから古い。天平五年昆陽池が完成してからその水門尻を守る部落として発展した。

9 大鹿 大同二年(八〇七)坂上田村麿が尼崎の大物の浦に船をとめ北方陸地に狩猟を行つたがその日は折り悪しく一匹の獵物がなくとくく猪名野笹原の北方まで征め上つて漸くこゝで大きな鹿を一頭獲とめた。そこでたいへん悦んでこの地は良いところだ今後大鹿と称するがよい。家来の中どこに住居を希望する者があれば許す。そしてそれ等には一斉に坂上姓を与えらるといつて若下の家来を永

住させて東北に帰つた。

10 寺本 天平三年(七一三)支那の昆崙山昆陽寺を模して行基は昆陽寺を建立したがその美しい寺の所在地の意

11 荒牧 荒牧にある容住寺は聖徳太子の建立と伝え古く寺であるがこの付近は太子の開拓したところ太子が始めて新辟したところである。新辟は後荒牧とかわつた。

12 雲正坂 国鉄伊丹駅前西方高台で昔雲正法印が自力でひらいた神津に通ずる唯一の坂路でたいへん便利になったからその名をつけられた。

13 昆陽 いまの昆陽は昔出雲朝廷に太平洋がないのでここに天児屋根命を駐在させて太平洋を抑えこれがないへん善政を施した。そこで命の名児屋根命の児屋をとつて地名とし後昆陽寺が建つてから昆陽に改めた。

14 古城 伊丹城のあつたところ。

15 外城 伊丹城の三の丸の外城

16 大手町 伊丹城の大手門のあつたところ。

17 宮の前 猪名野神社の前通り。

謹賀

新年

昭和四十八年一月一日

事務局長	安山	中本	白井	山本	多田	笠原	河村	同村	同森	同倉橋	同深川	同吉永	同朝山	同楠山	同理事	同副会長	同伏見	同戸田	同小西	同足立	同九兵衛	同小西	同新右衛門	同正慶
事務員	安山	中本	白井	山本	多田	笠原	河村	同村	同森	同倉橋	同深川	同吉永	同朝山	同楠山	同理事	同副会長	同伏見	同戸田	同小西	同足立	同九兵衛	同小西	同新右衛門	同正慶
事務員	安山	中本	白井	山本	多田	笠原	河村	同村	同森	同倉橋	同深川	同吉永	同朝山	同楠山	同理事	同副会長	同伏見	同戸田	同小西	同足立	同九兵衛	同小西	同新右衛門	同正慶



十周年のあゆみ

昭38・2・7	伊丹庵寺保 存会設立、 伏見市長 石橋英太郎 岡田利兵衛 山本賢之助	昭40・11・16	伊丹庵寺跡 出土水煙の模 作なる	昭41・6・29	昭和四年 伊丹庵寺上 地買収補助金 九十万円の 内示	昭42・2・10	二日間視聴 覚賞授与	昭43・1・5	寺本公団文 化財愛護少年 団新年カクタ 大会	昭43・8・25	長河村勝一結 成		
昭39・2・20	伊丹庵寺保 存会顧問委嘱 奈良博物館長 石田 藤作 京大名譽教授 梅原 末治 関西学院教授 武藤 誠 兵庫県文化財 辰馬 悦蔵 中陽史学会 田岡 香逸	昭40・11・17	伊丹庵寺跡 伊丹史跡 巡回講演会を 開催	昭41・7・16	伊丹庵寺発 掘調査書八百 冊である	昭42・2・1	伊丹の酒に 関する榎本岡 大教授講演会 開催	昭43・2・17	文化講演会 平民の落人の 生活実態につ き藤本浩一氏 の発表会を開 く	昭43・12・15	伊丹市大鏡 北ノ口平井明 一郎氏より伊 丹庵寺礎石二 個寄贈	昭44・3・27	市文化財愛 護少年団合同 視察を鶴林寺 方面に行う
昭39・7・1	伊丹庵寺跡 記念絵はがき 一千部発行 会員名簿を 発行	昭41・1・7	文部省に全 国文化財保護 協議会結成に 付次副会長 藤田幹事上京	昭41・11・14	三日間文化 財資料展 満願寺地方 研究会を開 催する	昭43・3・20	伊丹の史跡 をたずねて五 百部発行	昭43・12・15	特別会員制 を設けて九社 加入する計 十五万円	昭44・5・11	南野にむぎ わら音頭保存 会設立会長多 田治太郎		
昭39・9・10	伊丹庵寺跡 出土水煙原色 版三千枚印刷	昭41・1・20	伊丹庵寺跡 視察のため文 化財保護委員 会御用記念物 課長末丹	昭41・12・7	伊丹庵寺跡 顧問会を開 催する	昭43・4・27	国より伊丹 市を文化財モ デル地区に指 定さる	昭44・1・15	財財愛護少年 団新年クルタ 大会優勝者・ 個を授与	昭44・7・9	故八幡住吉 氏遺家族より 金五万円寄贈 二日間文化 会館で開能遊 展開催		
昭39・11・2	伊丹庵寺跡 土地所有者光 井司郎分の土 地を伊丹市が 買取	昭41・3・18	文化会館で 日能遊跡展五 日間開催	昭42・6・1	伊丹の史跡 カラースライ ド編纂する 下編纂する	昭43・5・1	昆陽寺山門 を伊丹市有形 文化財に指定 する	昭44・1・18	設置二十周年 記念行事教育 資料展を二日 間開催	昭44・8・16	二日間文化 会館で開能遊 展開催		
昭40・1・28	昭和三九年 度伊丹庵寺跡 防災補助金 五百万円交付 の指令	昭41・2・25	伊丹庵寺跡 絵はがき三百 部印刷	昭42・7・7	御願塚史跡 保存会設立	昭43・7・12	三日間文化 会館で秩原・ 青城廓展を開 催	昭44・1・18	文化会館で 開能遊展	昭44・8・1	寺本御願塚 両文化財愛護 少年団は京都 府泉州中学に 一泊交歓会実 施		
昭40・2・10	文化財調査 官斉藤忠文部 技官木下忠尚 氏指定調査の ため末丹	昭41・5・5	寺本公団に 日本八番目の 文化財愛護少 年団を結成	昭42・7・26	昆陽寺山門 の指定申請を 決議	昭43・6・14	振替貯金口 座大阪九四九 二番開設	昭44・1・24	県文化専門 委員村田、如 藤岡氏昆陽寺 山門調査	昭44・9・1	伊丹文化財 案内第三版 二部発行		
昭40・5・18	伊丹庵寺上 地買収費五百 万円補助決定	昭41・6・27	御願塚古墳 を新幹線跡線 から除外の件 につき市井、 山本両委員上 呈陳情	昭42・9・17	部発行する 御願塚史跡	昭43・8・31	御願塚文化 財愛護少年団 結成	昭44・2・1	昆陽寺山門 解体修理着手	昭44・7・23	撰州兵庫功		

昭46・10・14	第十四回伊勢神宮奉納會	昭47・3・27	少年団創立
昭46・10・27	日本民謡講大にむきわら會にむきわら會	昭47・3・21	三日月文化會館において
昭46・10・21	第一回鳥居美術館めぐり	昭47・3・27	愛護少年團
昭46・10・26	第六回全国市町村史跡整備大会出席	昭47・5・2	昭和四七年度總會創立十周年につき役員十五名表彰
昭46・11・19	兵庫県文化財愛護推進協議會に大前、山本、宮下、石田委員出席	昭47・5・26	県内國家文化財視察四五名
昭46・11・23	滋賀県永眼寺において史学会百回記念大会	昭47・5・30	市内中学校社会科担任教員史跡めぐり
昭46・12・9	伊丹庵寺跡見取看板建設	昭47・5・31	発展的名称変更毘陽寺文化財保存會總会新会長油井久雄氏
昭46・12・26	財愛護少年團市内史跡研究会	昭47・7・11	史学会、五回研修會、五方面に行く
昭47・1・7	第四回文化財カルタ大会を市立図書館に開催	昭47・7・25	猪名川田渡し場に芭蕉翁碑建設
昭47・1・8	伊丹庵寺跡においてみずほ文化財愛護	昭47・7・29	新庁舎建築落成にむき事務所を新庁舎四階にうつす
		昭47・9・4	伊丹庵寺跡礎石一個寄贈、子会奈良
		昭47・9・15	

伊丹市みずほ文化財愛護少年団

昭和四三、八、三〇 八〇名
昭和四四、一、一〇 一〇〇名

昭和四五、一、一〇 一〇〇名

昭和四七、一、一〇 一〇〇名

昭和四七、一〇、五 二日間文化財愛護を国大会に山本出張

昭和四七、一〇、十二 市民の学校伊丹の史跡めぐり

昭和四七、一〇、二十 戸田教育長副会長に就任

昭和四七、一〇、三十 事務局長山本賢之助功績により勲六等に叙し車充旭日章を授けられる

昭和四七、一〇、三十 昭和四七年年度總會創立十周年につき役員十五名表彰

昭和四七、一〇、三十 市内中学校社会科担任教員史跡めぐり

昭和四七、一〇、三十一 発展的名称変更毘陽寺文化財保存會總会新会長油井久雄氏

昭和四七、一〇、三十一 史学会、五回研修會、五方面に行く

昭和四七、一〇、三十一 猪名川田渡し場に芭蕉翁碑建設

昭和四七、一〇、三十一 新庁舎建築落成にむき事務所を新庁舎四階にうつす

昭和四七、一〇、三十一 伊丹庵寺跡礎石一個寄贈、子会奈良

若い力を結集!!

伊丹には全国第一位をめざす次の四つの文化財愛護少年団があり各々特長を以て全国の覇たらんとしている。

1 伊丹市毘陽寺文化財愛護少年団 (旧寺本会)

2 伊丹市御願塚文化財愛護少年団

3 伊丹市南野文化財愛護少年団

4 伊丹市みずほ文化財愛護少年団

伊丹地方史学会の歩み

史学会は昭和三十八年圖書館長を退職した山本賢之助氏が伏見協会長を名譽顧問に推戴して伊丹、西宮、尼崎、芦屋、西市の郷土史家と手をつないで発足したもので、以来毎月市内外の文化財研究に力を注ぎ現在会員数二〇〇名

昭和四十六年十一月二十二日 滋賀県永源寺において第一〇〇回記念研究集會を盛大に開催し熱烈な研究討議が行われた。

役員

名譽顧問 伏見 正慶
会長 山本賢之助
副会長 門脇 良光
監査 松岡 孝彰 萩野 英

伊丹史資料目録

(既刊)

1 文化財愛護かるた	四四年 初版	組	一〇〇円
2 伊丹の文化財をたずねて	四七改訂五版	部	一〇〇円
3 伊丹の文化財案内絵図	一九六九年版	部	一〇〇円
4 毘陽寺落成絵はがき	四六年	五枚一組	一〇〇円
5 伊丹庵寺 絵はがき	四六年	五枚一組	一〇〇円
6 伊丹市指定文化財	四五年	部	五〇円
7 伊丹の歴史	四七年	部	一〇〇円
8 文化財を考えよう	四六年	部	三〇円